一宮市国際交流協会（iia（アイアイエー））ニュース

iia
ichinomiya
international
association

かけはし

2018
Vol.79
July

5月22日、木曽川東小学校で3年生を対象に、ウズベキスタン共和国交流会が行われました。まだまだ馴染みの薄い国ですが、彼らの話から目、耳、肌で感じ少し身近になりました。休憩時間には子供たちはウズベキスタンの民族衣装を身に着け、色々なポーズをとって見せてくれました。

聞くより、考えるセミナー

イタリア文化って何？

声を弾ませて「イタリアへはもう６～７回行ったかな。とにかくイタリアが大好きなんです！」というつわものから「４月に旅行に行くので下調べのつもりで」というご夫婦まで、セミナータイトル「イタリア文化って何？」に引き寄せられた面々が集まり、イタリアに抱いているイメージを参加者全員で出し合うことから始まりました。

アメリカより若いイタリアという国

紀元前754年にはローマ市が設立されましたが、ローマ帝国の衰退により多くの外国の支配を受け、いくつかの国に分かれて別々の歴史を歩んできました。愛国精神の強まりで統一運動が起き、イタリア王国が生まれたのは1861年。古代ローマのイメージがあるけれど、意外と新しい国だということに驚いている人が多くいました。

イタリア語が話せないイタリア人

違う国の影響を受けて歴史を刻んだため、言語も地域によって全く違います。今でもイタリア語と方言のほかに12の言語があり、隣の地域の言葉がわからないこともあります。現在イタリア語といわれているのはフィレンツェで使われてきた言葉で、おじいちゃんおばあちゃん世代の人の中には方言だけで生活し、イタリア語を話せない人もいるほどです。

イタリア人になりきって自己紹介

休憩時間に、イタリアの都市名、名物料理、その地方の特色などが記されたカードを一人ひとり受け取り、その都市出身のイタリア人になったつもりで、自分の街を紹介しあうゲームをしました。クリスマスの過ごし方が全然違ったり、そんなものが食べられるのかと食文化にびっくりしたり、地方ごとに独自性が強いことがよくわかりました。

変わりつつあるイタリア

テレビの影響やインターネットの普及、人々の移動で最近変わりつつあるようです。方言がなくなったり、地方の食べ物がどこでも食べられるようになったり、地域ごとの違いがなくなってしまうという心配の声もありますが、グローバリゼーションのおかげでやっとイタリアが一つになれると考えることもできるようです。

私たちがイタリア文化と聞いて次々に思い浮かべたものは、地域の深い歴史に根付いた伝統をそれぞれの地域で誇りを持って守っているもので、イタリア全土の文化ではないことがわかりました。地域ごとに文化が違うイタリアはどこへ行っても見所満載。参加者は今までと違ったイタリアの魅力を発見できたと思います。　（伏原）

講師の国際交流員アレッサンドラさんとイタリア人なりきりゲーム

外国人児童生徒向け進路説明会　ききょう会館　6.16

一宮市在住の外国人児童生徒を対象に、高校進学のための説明会が開かれました。

開催にあたり、国際交流協会では、協会のホームページや市の広報への掲載、日本語教室や各学校で該当生徒にチラシを配布してもらうなどの広報を行い、当日は33名もの親子が参加しました。

会場では、中国語、タガログ語、英語の言語ごとのグループに分かれ、それぞれ通訳のボランティアがついて、講師の話に、そのつど説明していくという形で進められました。

はじめに、愛知県立起工業高等学校の昼間定時制「翼キャンパス」の市田弘之先生が、高校生活や定時制のシステム、少人数で日本語支援のサポートがあること、入試までの流れについてなどを、丁寧にわかりやすく説明しました。

次に、日本語ひろばジュニアボランティアの加藤玲子さんが、日本で安定した生活をしていくためには高校を卒業した方がいいこと、愛知県の高校入試の概要と、内申点が大切だから、学校はちゃんと出席して提出物は出すようにということを、強く訴えました。

親たちは、学校までの通学方法や、授業料についてなど、具体的な質問をしながら熱心に聞いていました。

参加した子どもたちからは、「高校に行くために日本語をがんばりたい」という、希望に満ちた言葉がたくさん返ってきていました。（日野）

ホームステイ受け入れセミナー
～はじめよう！ホストファミリー～　i-ビル市民活動支援センター　6.3

ホームステイ受け入れセミナーに、25名が参加されました。お子さん連れも多く、メモを取りながら話を聞いていました。

ホスト（受け入れ家庭）、ゲスト（ホームステイする外国人）それぞれの経験者の話があり、役立つ話がたくさんありました。ホストとして一番大事なのは、おもてなししようと無理をせず、普段の家族で過ごすのと同じようにするということでした。

「NPO子どもと女性のイスラームの会」の代表理事の方より、世界の全人口の約１／４がムスリム（イスラム教徒）だと説明がありました。それだけ人口が多いと、ムスリムの人がホームステイに来る可能性もあるので、お祈りなど宗教的なことを知っておく必要があります。文化が違う人同士が一緒に過ごすので、お互いを知って楽しく過ごすのが良いですね。

ムスリムの人が食べるハラールの試食もあり、ムスリムの文化に触れることができました。（大野）

国際交流員・アレッサンドラの学校訪問だよ～

一宮市立北方小学校　5.29

一宮市の国際交流員は学校訪問事業として毎年、市内の小学校に行って、特別授業をしています。平成30年度は42校が予定されています。海外の文化や習慣を紹介して、日本の文化と、いろいろな違いがあることを知ってもらおうと、交流員が考案した方法で授業を行います。

この日は１日、国際交流員のアレッサンドラさんが北方小学校を訪問しました。午後からの２年生の特別授業を紹介します。

担当の先生に引率されて、３クラスの児童たちが屋内運動場に集まりました。「きりつ」「れい」「おねがいします」の大きなあいさつから、始まりました。

アレッサンドラさんが出身国イタリアの小学校を紹介しました。

みんなが一番おどろいたのは「夏休みは、３ヶ月ありますよ～」児童たちから「え～」「いいなあ」「すご～い」の大合唱でした。そのあとに「イタリアにひっこした～い！」の声には、大笑いでした。

長い夏休みは、サマーキャンプなど、家族で休みを楽しむそうです。そのほかに、イタリアの小学校は、５年生までで、９月から始まることなど、真剣に聞いていました。

小学生の１日の紹介で、アレッサンドラさんから「イタリアでは、朝ごはんに、なにを食べていると思いますか？」の質問に、「パン」「パスタ」の声が多くありました。答えは、「あまいもの」で、児童たちが、びっくりしていました。

イタリアとの違いに、感心したところで、すこし目先をかえて「これからクイズをしま～す。やりたい人は？」「やりた～い」のかけ声で、動物の鳴き声クイズが始まりました。

日本人とイタリア人の動物の鳴き声の聞こえ方がすこし違っています。イタリア人には、Ａ・Ｂどちらの鳴き声に聞こえますか？正しいと思うカードを持った先生のほうに集まるゲームです。

正解だと、飛び跳ねたり、ガッツポーズが飛び出したりして大盛り上がりでした。

どちらが正しいのか迷う児童もいて、運動場は、鬼ごっこさながらの楽しいゲームでした。

あっという間の45分間で「ありがとうございました」のあいさつで授業が終わりました。

帰りぎわに「もっとはなしがききたい～、またきて～」という言葉がたくさん聞かれました。

この特別授業で児童たちが、良い、悪いは別にして海外には、日本とは違う文化や習慣があることを知ってくれたと思います。

（akeharu）

世界一大きな授業 2018 in いちのみや

大和公民館 大会議室　5.20

昨年度に引き続き、「世界一大きな授業2018 in いちのみや」が開催されました。この「授業」とは、教育の大切さを考えるもので、小学校に通えない子どもが世界には居ることなどの問題をともに考え、そしてともに学ぶことを目的としています。講師は国際理解教育ファシリテーター「ファシ138」の高木秀寿（たかぎひでとし）さんで、19名の方々が参加されました。

会場となった大会議室には、世界規模での課題が書かれたパネルが掲示されています。「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals）を啓発するパネルで、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など、全部で17の目標が掲げられています。そして、お集まり頂いた19名の方々と一緒に考えていく当日の課題は、「質の高い教育をみんなに」というものでした。会場では19名の参加者が５つのテーブルに分かれ、世界規模での教育問題をディスカッションしました。

世界規模では、教育の問題は深刻です。まずは、「世界では、何人の子どもが小学校に通っていないのか?」「小学校に通えない理由は?」「世界で、小学校を中退してしまう子どもの割合は?」といった質問から始まりました。

続いて、グループ・ディスカッションです。下記のようなことがあって良いのか、良くないのか、この「かけはし」を手にされている読者の皆さんも考えてみませんか。当日のグループ・ディスカッションで出された問題の一例を挙げます。

Ｑ１　日本人のAさんは地元の中学校に通っているが、同い年の日本人のBさんは隣町のフリースクールに通っている。

Ｑ２　日本の学校は教育や地域活動、災害時の避難場所として利用されるが、アフガニスタンの学校は軍の拠点として利用されることがある。

Ｑ３　アルゼンチンのC君は、最寄りの中学校まで片道２時間かけて馬に乗って通っているが、フランスのDさんはスクールバスで10分の中学校に通っている。

Ｑ４　ガーナの10歳のE君は、カカオ農園で働き、学校に通っていないが、同い年の日本人のF君は６歳の時からずっと小学校に通っている。

こうした教育機会の違い・差異といったものは、多様性あるいは個人の自由の問題なのでしょうか、それとも是正すべき相違・格差の問題なのでしょうか？　会場では意見が分かれることも多く、中には難しい問題もあるようです。

「質の高い教育をみんなに」というのは、理想的なことのような、しかし改めて考えてみれば、ごく当然のことのようにも思えます。しかし、世界ではまだまだそれが達成されていない、という厳しい現実があります。「世界一大きな授業」は、そのような理想・あるべき姿と、現実のギャップがとても大きいということを啓発するとともに、皆でこうした問題を考えてもらう機会を提供することを目的としています。　（樋口）

外国絵本の読み聞かせ

一宮市立中央図書館５Ｆ　４月、５月、６月

毎月第一日曜日の11時から、外国絵本の読み聞かせが一宮市立中央図書館５階“おはなしのへや”で開かれます。お母さんやお父さんと一緒に、幼児から小学生までと幅広い年齢のこどもたちが参加しています。

４月は、中国語で「山から降りてきたサル」を、中国青島出身の山端さんが読み聞かせをしました。おサルさんが山から降りる途中で、トウモロコシや桃等を採りながら次々と取り替えて行きます。さらに行くとスイカ畑にでました。桃を捨て、おいしそうなスイカを手に入れます。ところが、途中で出会ったかわいいウサギさんを追いかけ、スイカを落としてしまいました。おサルさんは仕方なく、手ぶらで山へ帰って行きました。

お話しの後、子どもたちへ質問が出されました。「４月１日は何の日ですか？」すると男の子が、“春”と元気よく答えました。「春はお花畑やサクラや入学式などがありますね。ところで中国の入学式は何月か知っていますか？」の問には、だれも答えられませんでした。「中国では秋が入学式なんですよ。」と聞くと、子どもたちは不思議そうでした。

５月はズンさんが「スイカの伝説」を母国語のベトナム語で読み聞かせをしました。これは2000～2500年ほど前からベトナムで伝わるお話だそうです。

６月は国際交流協会のアレッサンドラさんがイタリア語で「そらまめくんのぼくのいちにち」と、英語による「くれよんのくろくん」を読み聞かせをしました。

原語の読み聞かせと、日本語訳もありますので心配ご無用です。いろいろな国の人と文化に触れて、その国のあいさつ言葉などを教えてもらって、あっと言う間の楽しい30分間でした。（ドリアン）

English Free Talk

一宮市役所11F 展望レストラン

2016年春から始まった英会話の企画「English Free Talk」は、３年目に入ってすっかり定着してきたようです。

新年度も４月９日、５月14日、６月11日に開催され、それぞれ20名、23名、25名が参加しました。

始まってすぐのころは、“夢織り広場”、“シビックテラス”や“オリナス一宮”を会場としていました。オリナス一宮の大きな丸テーブルを囲んで８～10名で話をしたときは、なかなか話す順番が回ってきませんでしたが、６回目以降は１テーブル４名程度で話をするためしっかり会話を楽しめるようになったと思います。

話す内容は、事務局から「本日のテーマ」が与えられるものの、各テーブルではフリートークの趣旨に沿って思い思いの好きな話をしているようです。

話し相手は会場に到着した順に着席するため毎回変わってきます。簡単な自己紹介から始まるものの、話題がどんどん逸れていくのは面白いですね。参加者の英会話のレベルはそれぞれですが、なるべく皆さんに話すチャンスがあるように配慮されています。いつも参加している常連のほかに初参加という方もいて新しい仲間と会えるのはなかなか楽しいものです。

この行事も３年目を迎えたので、全くの自由な会話だけではなく、ショートスピーチ大会なども面白いのではないかと思います。また、毎月１回の開催では少し物足りないように感じますが、次の開催が待ち遠しいくらいで良いのかもしれませんね。

英会話学校と一味違う、会話そのものを楽しむこの企画がますます発展していくことを期待しています。（荒楠）

おとなりさん

ポルトガルのリスボン出身のレオノールさん（通称レオちゃん）は、2017年８月から愛知県立木曽川高等学校に留学中で、食べること、おしゃべり、菅田将暉が大好きな、きらっきらっの笑顔がまぶしい18歳です。レオちゃんは、日本が大好き。日本に興味を持ったきっかけは、ポルトガルで、アメリカと日本のアニメを見たこと。日本ってどんな国？どんな生活？って思ったそうです。

まだ来日して10ヶ月ですが、日本語を聞く、話すは、すっかりマスターして、ひらがなカタカナと、簡単な漢字の読み書きもできるようになり、７月に日本語能力試験Ｎ３に挑戦します。

もうすぐ帰国予定ですが、「めっちゃ楽しい、帰りたくない、木曽川高校最高！特に今の２年生が大好き！みんなありがとう！ポルトガルに戻るけど、ぜったいまた日本に来る！」と言っています。将来は、ポルトガルのママみたいな通訳になりたいと夢も教えてくれました。

レオちゃんから、「外国人でも私みたいに日本語を話せる外国人もいるから話しかけて！」

残り少ない留学生活を思いっきり楽しんで、いっぱいの思い出、写真、プリクラ、ポルトガルには少ない日本のかわいい物たくさん持って帰ってね。待ってるよ、また日本で会おうね。（ゆご）

iia information

世界をまなぼう！ セタグローバルサマーセミナー

日時：７月25日（水）午前10時～午後４時
会場：本庁舎11階会議室、14階大会議室
内容：ＳＤＧｓカードゲーム、一宮西高校の生徒による小学生英語教室、国際理解セミナー、フェアトレード商品がもらえるスタンプラリーなど

特別講演：
ピーター・フランクルさん（数学者･大道芸人）
「世界100カ国の面白体験談」
時間：午後２時30分～４時
会場：本庁舎14階大会議室

世界をあそぼう！ フレンドシップフェスティバル2018

日時：９月29日（土）、30日（日）
午前10時30分～午後５時
会場：イオンモール木曽川 ノースコート
内容：世界のステージ、クラフト体験、民族衣装の試着体験など

＊iiaでは、協会事業を支える国際交流基金への寄付を募集しています。
また、一宮市の国際交流の中心となって活躍いただく親善ボランティアも随時募集しています。
詳しくはiia事務局までお問い合わせください。

iia Facebookページ

イベントのお知らせや、外国人のみなさんに役立つ情報を多言語で発信しています。

Multilingual posts about event notices and helpful information for foreign residents.

地球あっちこっち

「ホンモノ」を伝えたい

畑田　望

私は高校生の頃アメリカに１年間留学し、大学ではもっと沢山の人と話したいと思いスペイン語を勉強しました。そして、卒業後はメキシコに工場がある会社に就職しました。会社では、そこで働いているベトナム人と関わる機会が多くありました。彼らと関わる中で、東南アジアに興味を持ち、昨年の夏から国際交流基金の「日本語パートナーズ」としてベトナムの中学校・高校で日本語を教えるボランティアをしています。

任期は10ヶ月間なので、もうすぐ日本へ帰国しますが、今回はここベトナムでの活動について少し紹介します。

東南アジア諸国では多くの学校で日本語を勉強している学生がいます。ベトナムでもたくさんの学生が勉強しており、高校では、日本語が主専攻の専門クラスもあるくらいです。

私は現在、ベトナム中部にあるフエという街の中学校で、現地の先生とペアになって教えています。通常の授業以外にも、日本文化を紹介する授業があり、言語だけではなく、日本について幅広く知ってもらう機会もあります。文化紹介の授業は、日本を身近に感じてもらえる貴重な時間です。

文化紹介の際はもちろんですが、生徒と接する際に大切にしていることがあります。それは「ホンモノ」と触れ合う機会を多く持つことです。

ベトナムへ来たばかりの頃、理解できないことが沢山あってとても戸惑いました。

しかし、そのほとんどが「ベトナムの文化」で、実際に現地で過ごし、体験することで理解が深まることが多くの場面でありました。その為、生徒達にもこのホンモノの体験を提供できるよう意識しました。

福笑いは大人気です。

例えば、お正月の紹介の際には年賀状を書いて、実際に他校の生徒に送ったり、おにぎりを作った際には、日本で一般的な具である「梅干し」を食べてもらったりしました。また、ベトナム人はあまり使わない「ありがとう」「ごめんなさい」も沢山生徒に使うようにしました（日本人は沢山使いますね）。

日本人だからこそ伝えられることがあると思うので、私はなるべく多くの「ホンモノ」の日本を伝えられるように活動しています。

ベトナムの生徒は本当に素直な子が多く、明るい未来に向かって日々一生懸命勉強しています。そして、日本人や日本文化を尊敬している先生や生徒が沢山います。偶然にもこのベトナムで活動出来たことを本当に幸運に思います。ベトナムで過ごした「ホンモノ」の時間を、今度は日本へ帰国してからより多くの人に伝えていきたいです。

前列一番左が畑田さん。ベトナムの生徒たちと。

編集後記

最近本屋で本を買ったら、抽選くじが付いていた。１等は本を16kg分プレゼントすると書いてある。服のグラム売りはあったが、本を目方で扱うのもありなのかと思った。
毎月１万円分の本を自分で選ぶのではなく、本屋店主に選んでもらうビジネスがあるように、本の扱いにも変化を感じているこの頃である。（みかん）

発行　一宮市国際交流協会　（〒491-8501　一宮市本町2-5-6　一宮市生涯学習課内）

ご意見・ご感想お待ちしています　【TEL:0586-85-7076　E-mail:kokusai@city.ichinomiya.lg.jp】
当協会に関する情報はウェブサイト・Facebookページもご覧ください
【WEB:http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/iia/　Facebook:https://www.facebook.com/iia138】
＊この「かけはし」は、協会ボランティアにより取材・編集されています。
みなさんも国際交流協会親善ボランティアに参加しませんか？お気軽にお問い合わせください。